

価格.com

2013年2月12日
株式会社カクコム**1年を通じて、ユーザーにもっとも高く評価された製品は！？****『価格.com プロダクトアワード 2012』を発表！****～厳しい市況が続いた2012年、消費者の支持を集めたのは、
逆境下においても新たな価値を生み出した製品～**<http://kakaku.com/productaward/>

株式会社カクコム（東京都渋谷区 代表取締役社長 田中実 東証コード：2371）は、同社が運営する購買支援サイト『価格.com（<http://kakaku.com/>）』において、2013年2月12日（火）、『価格.com』に掲載されている製品の中から、2012年1年間を通じてユーザーにもっとも支持された製品を選出する『価格.comプロダクトアワード2012（<http://kakaku.com/productaward/>）』を発表しました。特設ページにおいて、受賞製品に対してユーザーから寄せられたレビュー（評価）や、各製品のランキング推移とともに、大賞受賞メーカーよりいただいたコメントなども掲載しています。

2012年度の結果を見ると、多くのユーザーの支持を集めた製品は、厳しい市況にあっても、消費者に新たな価値を提供した製品であることがうかがえます。

特に大賞受賞の7製品においては、従来にはなかった斬新な魅力を持つだけでなく、ターゲット層を絞り込んだうえで機能を高めた製品や、流行に左右されず基本性能を着実にブラッシュアップさせた点が、ユーザーの高い評価を得たようです。

『価格.comプロダクトアワード2012』概要**■ユーザーの声をもとに製品を選出！**

POS データなどをもとにした販売数や販売額、専門家や著名人による選出などとは異なり、価格.com ユーザーによる製品レビューやクチコミ情報などのデータを独自にポイント集計し、各賞を選出しています。2006年8月に上半期集計による結果を発表したのから始まり、年間アワードとしては、7年目を迎えます。

※レビューやクチコミ数が一定数に満たない製品、発売時期が2012年ではない製品は、評価内容に限らず選考の対象外となります。

■対象カテゴリ・部門

価格.com の取扱い製品分野において、特に高いアクセスを誇る「パソコン本体」「パソコン関連」、「AV家電」、「生活家電」、「カメラ関連」、「携帯電話」、「自動車関連」の7カテゴリ92部門が対象。人気製品や定番製品から、通好みな製品まで数多く網羅しています。

集計対象期間：2012年1月～12月

■各賞

- ・プロダクト大賞・・・パソコン本体、パソコン関連、AV家電、生活家電、カメラ関連、携帯関連、自動車関連の各カテゴリにおける最も高い支持を得た1製品を選出
- ・部門賞（金賞・銀賞・銅賞）・・・各カテゴリ内各部門における上位3製品を選出

※『価格.com プロダクトアワード2012』は、スマートフォンからもご覧いただけます。



プロダクト大賞受賞製品(7 製品)

【パソコン本体 大賞】

[Google Nexus 7 16GB](#)

(タブレット端末・PDA)



【AV 家電 大賞】

[SONY BRAVIA KDL-55HX850](#)

(液晶テレビ)



【カメラ関連 大賞】

[ニコン D800 ボディ](#)

(デジタル一眼カメラ)



【自動車関連 大賞】

[マツダ CX-5 2012 年モデル](#)

(自動車本体)



【パソコン関連 大賞】

[インテル 330 Series SSDSC2CT120A3K5](#)

(SSD)



【生活家電 大賞】

[象印 極め炊き NP-ST10-BP](#)

(炊飯器)



【携帯電話 大賞】

[ソニーモバイルコミュニケーションズ](#)

[Xperia acro HD SO-03D](#) (スマートフォン)



総評(抜粋): 株式会社カカコム メディアクリエイティブ部 部長 鎌田剛

『価格.com プロダクトアワード 2012』各カテゴリのプロダクト大賞いずれの製品も、まさに2012年を代表するような製品で、その多くが、いわば「逆境の中、新しい価値観を生み出した」製品だった。

2012年のパソコン・家電業界を振り返ると、パソコンの販売不振が続き、地デジ化完了の反動によるテレビの販売不振が起こるなど、決して明るいニュースばかりではなかった。

年間を通じて安定した人気とニーズを勝ち得ていたのは、スマートフォンとタブレット端末くらいであっただろう。しかし、そんな逆境の中でも、しっかりしたモノ作りに裏付けられた製品はきちんと評価される。新製品の投入を見送るメーカーが相次いだ中、逆にデジタルテレビの「買い換え層」にターゲットを絞り成功したソニーの液晶テレビ「BRAVIA KDL-55HX850」などはその典型例だ。

また、スマートフォン分野でも、2012年は国内メーカー勢の健闘が目立った。特に今回、携帯電話カテゴリで大賞を受賞した「Xperia acro HD SO-03D」は、その先陣を切ったような製品で、その後のソニーをはじめとする国内メーカー勢の攻勢を予期させる形となった。ハイブリッドカー全盛の時代に、あえて従来型のエンジンのブラッシュアップにこだわり続けたマツダ「CX-5」の大成功も、こうした流れの中で起こった好例と言える。

デジタルカメラ市場でも、同様の価値の転換は起こった。ここ数年のデジタルカメラ市場は、需要の飽和状態が続き、新たな価値を提供するのが難しいと考えられてきた。しかし、2012年2月にニコンが発表した「D800」は、常識を打ち破る3630万画素という高画素フルサイズセンサーの搭載により、カメラのコアユーザーの心を改めてグッと引き寄せた。

デジタルカメラ市場では、ここ数年エントリーユーザーの開拓に目が行きがちな部分があったが、「D800」に代表される本格製品が相次ぎリリースされ、コアユーザー向け市場が再び活性化。デジタルカメラ市場に久々に明るいニュースが相次いだ。これも新たな価値転換のひとつだろう。

こうした“コアユーザー市場の再開拓”という面では、上記のマツダ「CX-5」やソニー「BRAVIA KDL-55HX850」、そして生活家電カテゴリ大賞を受賞した象印の高級炊飯器「極め炊き NP-ST10-BP」も同様だ。いずれも、流行に左右されず、基本性能をしっかりブラッシュアップしたという意味で似たコンセプトを持つ製品だが、こうした製品が高く評価されたのは、2012年を通じたひとつの消費者トレンドと言えるかもしれない。

また、これまでとは若干ニュアンスが異なるが、新しい価値の提供という意味では、パソコン本体カテゴリ大賞を受賞したGoogle「Nexus 7」も2012年を代表するビッグプロダクトといえる。

2012年10月に発売された製品でありながらも、ユーザーの圧倒的な支持を得てプロダクト大賞に輝いたのは、それだけ魅力的なスペックを持っていたからにほかならない。それまでのタブレット端末といえば、10インチ前後の画面を持ったものが中心だったが、この「Nexus 7」の登場以降、タブレット端末の主流は完全に7インチへと移った。7インチのタブレット端末は持ち運びに便利で、操作性もよいことは以前から指摘されていたが、「Nexus 7」が2万円を切る戦略的な価格で発売されたことで、多くのユーザーがその価値に気づき、7インチタブレットへの流れを加速させたのだ。

もともとこの分野では、アップル「iPad」の存在が非常に大きかっただけに、「非iPad」「非10インチ」で勝負した「Nexus 7」も、逆境の中、新たな価値で成功を収めた製品のひとつと断言していいかもしれない。逆に、パソコン本体に関しては残念ながら、タブレットを超える価値を提供できる製品がほとんど見当たらなかったとも言える。

また、パソコン関連カテゴリに関しても、PCパーツであるSSD以外に、あまり大きな価値を感じられる製品がなかったと言える。2013年は、パソコン本体および関連製品の中でも、こうした逆境をはねのけて、新しい価値を提供してくれるような製品の登場を期待したい。

【価格.com サイトデータ】（2013 年 1 月末現在）

月間利用者数 4,408 万人、月間ページビュー10 億 8,149 万 PV、累計クチコミ件数約 1,500 万件。
<月間利用者数の内訳>PC：3,212 万人 スマートフォン：1,062 万人 モバイル：134 万人

▼『価格.com』ソーシャルメディア公式アカウント

- ・ Facebook 公式ページ一覧：<http://kakaku.com/facebook/pagelist.html>
※モバイル、カメラ、自動車・バイクなど、カテゴリ別に提供中
- ・ Twitter（価格なう）：<https://twitter.com/kakakucom/>
- ・ Google+：<https://plus.google.com/109759724047688081762/>
- ・ mixiページ：http://page.mixi.jp/view_page.pl?page_id=119404

【株式会社カカコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート
代表取締役： 田中 実
企業情報：<http://corporate.kakaku.com/>
事業内容： サイトの企画運営
当社運営サイト一覧：<http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 経営企画部 広報室 内山・石橋・甲斐
tel: 03-5725-4554 e-mail: pr@kakaku.com